二口峠頂上（山伏峠）から西に二百メートルほど
山寺（馬形）側に下った、峠道を外れた尾根の頂
上の僅か三メートル四方程の平場に、文化三年
（１８０６年）馬場の者が建立した湯殿山大権
現碑（出羽三山碑）が峠道の難所を見守るよう
建っています。かつてこの石塔を建立した人の信
仰心の強さが想像されます。この見晴台からは、
山寺、村山盆地、遠く月山が望めます。

いってみっぺ秋保！

二口越え最上街道の秋保側最後の行程、大滝から野尻・二口峠・山伏峠道の見晴台にある湯殿山大権現碑まで、道ばたの石塔を訪ねます。

滝原には、この路傍で最も古い年号の宝暦十一年（1761年）に建てられた庚申供養塔があります。また、大滝には木食知足上人建立の高さ3mもある大聖不動明王碑や新山大権現碑の他、肥後国の人が願主の大乗妙典六十六部供養塔があります。

野尻には、宝暦十二年（1762年）建立の六字名号碑をはじめ多くの供養塔があります。その中には、施主として姓名が刻まれた石塔が見られます。

二口境目守番所の屋敷跡には、二口という名称の由来を示す追分石、二口峠（山伏峠）の頂上には、この街道が塩や魚を運んだことを物語る塩竈大明神碑があります。また、山伏峠の見晴台には信仰の強さを示すように、湯殿山大権現碑が峠道を見守っています。

道ばたの神々Ⅴ
馬場(滝原～野尻～二口峠)編

いってみっぺ秋保！ 道ばたの神々Ⅴ 馬場(滝原～野尻～二口峠)編

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連　絡　先：秋保総合支所総務課（022-399-2111）
秋保市民センター（022-399-2316）

人々が素朴な信仰心を背景に、
その願いを込めて建てた石塔や祠など、
二口街道沿いの道ばたにある神々を巡り、
昔の人々の心に触れてみませんか。

掲載されている情報は、令和5年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.42

道ばたの神々V 馬場（滝原～野尻～二口峠）編

N

❸ 秋保大滝 木食上人縁の石塔

秋保大滝の鳥居の西側に高さ3mもある「大聖不動明王」の石塔、大聖は尊称の意味で、文化八年（1811年）に建てられ、右側面には「湯殿山」、左側面には「象頭山（ぞうずさん）」下部に「日本回国供養當邨行者施主太作」とあります。

（太作は知足上人の俗名で、文化元年（1804年）から文政五年（1822年）にかけ奥州各地を巡錫して浄財を集め、文政八年（1825年）に現在の不動堂を建立し本尊を安置したと云われています。象頭山とは釈迦が修行し説法したインド中部の山のことで、金毘羅大権現が鎮座する琴平山の別称。）

鳥居を入ってすぐの所にある「奉納大乗妙典六十六部供養塔」は幕末の文久二年（1862年）増立で、願主は肥後国熊本の藤井玄伯とあります。これは、日本全国六十六カ国を巡礼し、一国一カ所の霊場に法華経を一部ずつ納めたという諸行の記念碑です。

滝見台の「新山大権現」は、知足上人が大滝に身を投じて遷化した文政十一年（1828年）の後、文政十三年（1830年）に上人を（にいやま大権現）として祀ったものと考えられます。

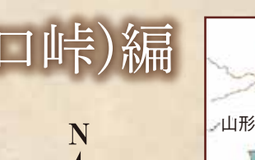
❷ 滝原の石塔群

文化十一年（1814年）の「奉唱念佛一百万遍供養」碑があります。これは自身の往生、故人への追善、祈祷を目的として念佛を百万回唱えたことを記念したもので、施主築田氏とあり、この裏手に屋敷があったという当氏の建立と思われます。また文化十三年（1816年）の「水神・明神・山神供養」と彫られた石塔の他、南無阿彌陀仏や庚申供養塔があります。

❶ 深野の三地蔵

三体のお地蔵様についての謂れは不明ですが、年中手入れがされ地域の方々に大切に祀られています。寛政六年（1794年）に太兵衛という人が建てた「三界萬霊供養塔」と嘉永七年（1854年）の「馬頭観世音」が並んでいます。

❶から❽は自転車での周遊がおすすめ！



周遊約16km
自転車 周遊約100分
自動車 周遊約40分

❹ 野尻町南の子安観音

秋保大滝方面から野尻の集落に入って間もなくの所にあり、二基とも天保十二年（1841年）の八月に建てられた子安観世音碑と出羽三山碑です。子安観世音の施主は子育て安産祈願の女講中、出羽三山碑は野尻組中が施主となっています。

❺ 野尻町北の児午多産神

江戸時代に信仰が盛んになった小牛田山神を祀った石塔で、文政四年（1821年）に安産子育てを祈願して建てたものと思われます。下部には二十二人の名前が刻まれていますが、願いが込められた当て字の力強さが良いです。

❻ 野尻秋葉神社入口の山の神

山の恵みと山仕事の安全などを祈願して建立した山神碑。

寛政三年（1791年）に野尻町組中が建てたものと、昭和九年（1934年）に野尻製炭組合が建てたものが並んでいます。

❼ 野尻町頭の石塔群

元禄から文化年間の年号が刻まれた大小の供養塔。一番小さな「一南無阿彌陀仏」の供養塔が元禄八年（1695年）建立で最も古く、野尻の二十二戸が足軽に取り立てられて約三十年後のことと思われます。

また、享保十年（1725年）の「○南無六道能化地蔵菩薩」は、衆生がその業の結果として輪廻転生する六界から諭し導く地蔵を祀った石塔です。そして安永七年（1778年）建立の「西方無量壽佛」（西方極楽浄土の阿弥陀如来のこと。）、明和九年（1772年）と文化八年（1811年）建立の庚申供養塔があり、それぞれ塔主・施主名には姓名が刻まれているのが分かります。

❽ 二口街道路傍の地蔵様

建立の経緯は不明ですがよく見ると、お地蔵様が線彫りされた手の込んだ趣のある供養塔で、縁の人のお供えが絶えない石塔です。

❾ 二口境目守番所屋敷跡の道しるべと石塔

二口の名の由来と言える道しるべは、いつ頃からあったのかは不明ですが、藩境出入り監視役として登用された二戸の佐藤家は、正保二年（1645年）に境目守として任じられています。

この脇には、寛政五年（1793年）の「庚申供養塔」、嘉永七年（1854年）の「湯殿山」碑があり、ここが街道の分かれとなっています。

❿ 二口峠の塩釜大明神

文化十一年（1814年）に塩釜の魚を扱った仙台の商人たちによって建てられた石塔で、峠の難所を生魚が無事に越えられるよう願ったものと思われる。

前面と側面に世話人六人（大町・新傳馬町・肴町の商人）を含め、屋号の付いた名前が四〇人、屋号が付かない八人の氏名と修験者、石工の名前が刻まれています。

⓫ 山伏峠見晴台の出羽三山碑

二口峠頂上（山伏峠）を山寺方面（馬形方面）に二百mほど下った峠道脇に見晴台と呼ばれる場所があり、文化三年（1806年）馬場の有志が建立した湯殿山大権現碑。

ここは山伏の修行の場所とも思われる険しい断崖上にあり、山寺・村山盆地を臨む彼方に月山が遠望できます。旧峠道は荒れているので案内者が必要です。

真西に月山を望む断崖の見晴しに立つ